

代表者会 確認事項（規則、内規以外）

《開会式》

- ・ 開会式には当日出場する選手全員参加すること。（できない場合は理由を事前に担当理事に申し出る）
- ・ 開会式ではグラウンドコートは基本的に使用しないこと。（使用許可は当日の会長判断）
- ・ 開会式は、ユニフォームならびにスパイクで参加すること。（グラウンド事情がない限り）
- ・ 開会式に使用する団旗は日本スポーツ少年団公式のものを使用すること。
- ・ ブラカード、団旗（主将が持つ）を先頭に背の低い順で整列すること。

《試合前》

- ・ 選手、監督は試合開始 30 分前までには到着し、監督が本部席にメンバー表とボールを提出すること。
- ・ 天候の都合で最大 15 分、試合が早まる場合がある。
- ・ ベンチ内はもちろん、グラウンド内も禁煙である。
- ・ メンバー確認が始まったら、すでに試合が始まっているので、ベンチから必要以外出ないこと。
（トイレはメンバー確認の前に必ず済ませておくこと）
試合中のトイレは本部席（張番）に申し出てから行くこと。
- ・ 連盟大会を除きベンチ入りの選手は 10 人以上、25 人以下である。（10 人揃わないと試合はできない）
- ・ ベンチに入れる指導者は 5 名とする。（5 名とは別に給水係は 2 名まで可能とする）
ベンチに入れる指導者 5 名とは、監督（30）、コーチ（29・28）、スコアラー、代表者である。ベンチ内（給水係を除く）ではチーム帽子を着用すること。
- ・ 試合中、選手と監督以外はベンチから出ないこと。
（監督は、タイムを要求するとき以外にベンチをみだりに出ないこと）
- ・ 試合前の練習に参加の指導者は、運動のできる格好でチーム帽子をかぶること。
- ・ スコアラー、代表者、給水係は私服とする。ユニフォームを着ることはできない。
- ・ 球審の最初のプレイ宣告で試合開始時間計測とする。連盟では 85 分を過ぎたら新しい回には入らない。
- ・ 本部席は、理事、役員、グラウンド関係者及び当日の審判員以外は入れない。
- ・ 連盟では、審判、役員へのお茶出しはなしとする。

《道具・身に着けるもの》

- ・ 捕手役の選手が座って投球を受ける場合、ヘルメット・マスク・ファウルカップを着けること。
- ・ 投手のグラブについては 1 色とし、灰色と白色のグラブは使えない。
- ・ グラブの紐の長さを点検しておくこと。（きちんと結ぶ、5 cm 以内）
- ・ バットは変形や破損、テープの不備があると使えない。投手は手や腕のテーピングや絆創膏など付けることはできない。
リストバンドは使用禁止とする。マスコットバット、素振り用リングは禁止とする。
- ・ キャプテンは背番号 10 を付けること。
- ・ ロングパンツは学童では選手も指導者も禁止とする。

《試合中・後》

- ・ 連盟内規・野球規則・競技者必携をベンチ内に用意し、すぐに確認できるようにすることが望ましい。
- ・ セーフ、アウト、ストライク、ボール、ファウル、フェア・ボークなどの判定は抗議の対象にならない。
- ・ ルールの適用を審判が間違っていると思える時だけ、訂正を求めることができる。
- ・ 挨拶は最初と最後に整列して行うので、それ以外に行わない。（連名で申し合わせ済み）
- ・ 監督は 5 分以上抗議を続けると、退場処分になることがある。
- ・ 審判 4 人で協議して下った判定は最終的であるので、それ以上の抗議は両チームともできない。
- ・ 試合中のキャッチボールは外野のファウルエリア内で行うこと。座っての捕手役はホーム側を向くこと。試合中のキャッ

チボールは1組までで選手同士とする。

- イニング間の次打者以外の素振りは禁止とする。
- 次打者の素振りは次打者席以外禁止とする。また、打席内での素振りは禁止とする。
- 捕手は際どい投球をストライクに見せようとミットを動かさないこと。
- 審判、相手選手を惑わす行為は厳禁である。絶対に行わないこと。
- 当日の天候で審判員が認めれば、試合でグラウンドコートを使用することはできる。監督、選手は試合中、グラウンドに出るときにはグラウンドコートを脱ぐこと。(ベースコーチ・走者になった投手は除く)
- 実際に妨害しようとしていない行為でも、審判が認めれば妨害をとることがある。(盗塁時に打者が捕手の送球を妨害するなど)
- 長引く怪我の治療や給水タイムの場合は時計を止める。
- カメラのフラッシュは使用禁止とする。
- バックネット裏の真正面にはビデオカメラを設置しないこと。
- ベンチ内で電子機器の使用は不可とする。(ビデオ、携帯電話など)
- メガホンはベンチ内に限って、1個の使用を認める。

《試合のスピードアップ》

- 打者はサインを見るときにバッテリーボックスから出ないこと。
- 試合球が汚れた場合は、濡れたタオルなどで拭いてきれいなボールを球審に渡すこと。
- 試合球を紛失したら、攻撃側で補充すること。
- ワンモアピッチで速やかに練習球をベンチに戻すこと。
- 守備側のタイムの時には守備練習はできない。
- 選手負傷による守備交代の場合、3球をめどに交代選手のみ練習を認める。
- 監督がマウンドに行く場合、小走りで行くこと。
- 攻守交代は守備位置まで全力疾走で行くこと。
- 捕手の掛け声はホームベースの後ろで行うこと。(初回から)
- ベースコーチ、先頭打者は円陣にかかわらない。(ベースコーチがいないとプレイがかけられない)
- 投球練習の代理捕手は、捕手道具を事前に着けさせておくこと。代理捕手がいない場合は、3塁手等が代わりに行うこと。(マスク、ヘルメット必要)
- 捕手の道具装着はベンチ内指導者も手伝うこと。
- 勝利したチームは、試合終了後のグラウンド整備を指導者も手伝って行うこと。
- 試合が終わったら、次のチームのために素早くベンチを空けるようにすること。
- バックネット付近のボール拾いは攻撃側が行うこと。

《審判》

- 審判の集合も試合開始30分前であるが、できれば1時間前に来て前の試合を参考すること。
- 審判服でベンチ入りはできない。(上着と帽子は替えること)
- 審判服で試合前の練習に参加しないこと。
- 次の試合のグラウンド準備は審判を中心に行う。
- 審判は野球規則、競技者必携、連盟内規を理解し、更に各大会の取り決めを理解して試合に臨むこと。
- 自らきびきび動いて、テンポの良い試合運びを心がけること。

《その他》

- 選手に持病がある場合など、可能ならば事前に張り番にお伝えしていただくと助かります。

日頃の練習や試合の時から守られるように指導してください。